連携歯科医療の実際：成功へのチームアプローチ

土屋 賢司 先生（座長：北園 俊司 先生）

昨今、歯科医療の分野は **CAD/CAM** を用いた修復材料や接着を利用したボンデッドレストレーションなど、よりシンプルに洗練された修復材料が主流になりつつあり、応用範囲が広がったインプラント治療などとの組み合わせにより審美、機能において以前と比べると格段の進歩を遂げてきた。

しかしながら包括的視点からゴールの設定を補綴、矯正、外科、歯周治療、歯内療法、技工などの側面から治療計画を立案するといったことは今も昔も変わっていない。

特に咬合崩壊や審美的問題点の多い複雑なケースにおいては各領域のエキスパートの知恵を借りながら診断・治療計画の立案をおこなうことは不可欠である。

またこのようなチームアプローチを成功に導くためには各分野の専門家同志の密な連携と治療ゴールまでの価値観を共有できることが重要である。

今回いくつかの症例を提示しながら補綴治療における限界とチームワークの可能性を解説したい。

土屋 賢司 先生
土屋歯科クリニック＆ **Works**、東京 **SJCD** 顧問
北園 俊司 先生
きたぞの歯科矯正（鹿児島市）院長